

奮闘の日々

[100]

赤門ウィレックス
PM事業部名古屋営業部

やまもと・りょう
山本 亮さん

食品や医薬品の製造工場や建設現場で、環境衛生改善のための工事やメンテナンスを手がける赤門ウィレックス(本部長久手市)。入社3年目の山本亮さん(25)は、空調ダクトの清掃やアスベスト除去、害虫防除の営業を担当している。

大学で微生物学を専攻していたことから「学んだ知識を生かせる」と考え、入社した。当初は研究職を志望したが、入社後の研修で金額交渉の現場を目の当たりにし、考えが一変。「会社に最も貢献できる」として営業職に就いた。

同社の営業は契約を取るだけでなく、現場調査や工法の提案、施工管理までを一貫して手がける。山本さんも積極的に現場に足を運び、確認作業や打ち合わせを行うようにしている。工事の際の騒音など、現場でないと分からないことが多いためだ。

昨年担当した、ある解体工事現場が忘れ



「より大きな現場を任せてもらえるようになりたい」と語る山本さん

られないという。これまで担当した中で最も大きな現場で、受注金額も桁違い。責任の大きさに押しつぶされそうになったが、先方の担当者が山本さんに放った「君では(この担当は)無理」という言葉に発奮した。

工事期間中は早朝から現場に出向き、工事が円滑に進むように細かな調整を行った。先の担当者とも自然に会話が増えていった。約2カ月間の工事を滞りなく終えた時、先の担当者から「ありがとう」と声をかけられた。「頑張つてよかった、と心から思えた。会社にも貢献できた」と胸を張る。

この現場以降、優先順位をつけて仕事をしたり、納得いくまで確認をすること、先輩や上司に相談することの重要性を再認識。仕事のやり方が大きく変わった。

また、こうした仕事ぶりが評価され、10月には入社3年目までで顕著な成績をあげた社員に贈られる新人賞を受賞した。「お客様さまに成長させてもらった」と感謝の言葉を口にする。

賞を励みに「当社の今期のスローガンである『感銘と美徳』を実践し、『ありがとう』と言ってもらえるような仕事をしていきたい」と意欲を見せている。